

2018年度第2回町田市環境マネジメントシステム外部評価委員会

議事要旨

【日 時】2018年7月26日（木）午後6時30分～午後8時30分

【場 所】市庁舎2階（2-2）

【出席者】

委 員：松波（委員長）、奥（職務代理）、斉藤、須永、斎藤、
多久島、小池、大橋、越智、菓澤

事 務 局：町田市環境資源部 水島、環境政策課 塩澤、川瀬、土志田
坂牧、香山、井上

コンサルタント：株式会社知識経営研究所

【傍聴者】なし

報告 現地確認について

- 事務局から、概要の報告を行った。

7月10日の報告

小池委員：市庁舎の執務室である監査事務局について、整理整頓がされていて無駄のない状況が確認された。古紙等も分別されていた。気になった部分は広い部屋の半分に机も人もPCも偏っていたので部屋の中で温度差を感じた。残りのスペースはとても涼しかったのでサーキュレーター等を回して効率よく空気を循環させた方が快適に執務もできるのではないかと感じた。

さるびあ図書館については、老朽化が顕著に見て取れた。職員はできる限りの努力をしていると思うが、なかなかそれでは補いきれない部分があると感じた。エコということでエネルギーの使用量等の削減も大事だが、図書館機能として、温度差にムラがあるのはいかがなものか。また、電気も蛍光灯とLEDの中間的な性能のものを使用していて、正直暗いと感じた。図書館は文字を読んだり、勉強をしたりするところであるが、それにしても大変暗いと感じた。実際のエネルギーの使用量とかと比べてどちらが大事なのかと感じた。LEDライトはいま実際安くなっているのに、省エネ、施設の利用目的をバランスよく図ればと思う。職員の執務室も老朽化に加えて手元の蛍光灯を使っているなど省エネ重視ではあるが、仕事の効率が落ちるのではないかと感じた。その中で職員は大変努力をしていると感じた。

奥委員：基本的には資料1に書かせていただいているとおり。監査事務局の業務効率化が時間外勤務の削減に繋がったということは、ひいてはエネルギー使用量の削減にも繋がることなので、他の部局にも水平展開できるそういう内容だと思う。

さるびあ図書館はかなり老朽化が進んでいて、これ以上のエコオフィス活動によるエネルギー使用量の削減には限界を感じた。施設再編計画の中で図書館をどうしていくのかという全体の動きをしっかりと見極めていく中で、抜本的な改善を図っていくのであれば施設そのものの方針、改修をしないと現状のままではこれ以上の改善は望めないと感じた。

内部環境監査では他の部局についても産廃の取り扱いについて指摘されていたが、図書館の場合も同様に、ペットボトルの保管は、青いネットにいれられ屋外にただ置かれていた状況であった。産廃としての掲示もなく、決められた形での保管もなされていなかったため、全庁的にこういった状況がないようしっかり担保できるようにしていただきたい。

7月12日の報告

齋藤委員：市庁舎執務室の防災課について、特に大きな指摘はないが、担当者は職場の性質上、不定期の業務のために消灯、空調のロスがあるという点を気にしていた。これは災害が発生した時のことを考えて普段から業務にあたるという性質もあるのでやむを得ないことだと感じた。それよりも個別に職場環境の整備が必要ではないかと感じた。特に消防団室の整理整頓ができていなかったため、非常時の初動のときにこれでいいのかと個人的に疑問を感じた。

ひなた村についてはかなり老朽化を感じた。ただ、老朽化はしているが職員のエコオフィス活動への意識はとても高かった。いわゆる設備の老朽化によるものをなんとか補填しようと緑のカーテン、伐採木の利用、雨水の利用をしたりと様々な工夫をしていた。さらに資源の分別、再利用も、リユースを子ども向け教材にするなど工夫していた。しかし、空調に関してはかなり貧弱な面があり、緑の多い職場ではあるが、今年は猛暑なので職員や利用者の体調面が心配である。空調設備の入れ替えの際には、ソーラーパネルの設置等をして省エネとCO₂削減両面の充実を図ることが必要だと感じた。安直に設備投資はできないと思うが、全体としてCO₂が削減できる方向で設備投資をしていただければと思う。

松波委員：防災課は消防団の事務局も兼ねていて、外部の人が出入りすることで雰囲気は雑然としていた。緊急を要する部署であり、警察署や消防署のような雰囲気もあった。そういった事情もあり、照明のつけっぱなしや空調を低めの設定にすることに対し、担当者が辛目の点数をつけていた印象を受けた。エコオフィス活動も一定以上の活動をしていると感じたが、他部署に比べると緊急性の高い部署ということもあり、過小評価気味になっていると感じた。

ひなた村については、エコオフィス活動の施設管理部署の適正管理状況の中で、昼休み時の照明消灯とエレベーター・エスカレーターの不要時停止の2つができていないということで確認を取った。昼休みの照明消灯については事務所と受付場所が同じなので、昼休みも消灯することができないという理由があり、

エレベーター・エスカレーターの不要時停止に関しても、施設にあるエレベーターは旧式のもので電源がついていないので、電源を切るためにはブレーカーを落とさないといけない。さらにブレーカーを落とすと復旧するのにかなりの時間を要するので、車いすの方の対応等を考えるとブレーカーを落とすことができないとの合理的な説明を受けた。それ以外のエコオフィス活動全体については、雨水タンクをつけたり、水銀灯をLEDに変えたり、使用済みポスター、牛乳パック、ペットボトル等をリユース学習教材として利用する等、環境学習への貢献もされている。紙の分別に関しては本庁舎と同じ運用を行っていた。エコオフィス活動全般に関して意欲的に取り組んでいる印象を受けた。

7月13日の報告

葉澤委員 : 経営改革室については、会議でモニター、プロジェクターを用いて紙を一切使わないと説明を受け、良い取り組みだと感じた。ただし、同様の運用をしているのは経営改革室と情報システム課の2部署だけとのことなので、予算の関係もあると思うが、全部の部署に波及できれば更なる紙の削減効果があるのではないかと感じた。昼に照明の消灯も行っているし、空調の温度設定も適正だった。空調の吹き出し口には、風で揺れるようなリボンが付けられ、空調が出ているのがわかるので気分的にも涼しいのではないかと感じた。このように省エネに関しては努力が見られた。

生涯学習センターについては、ビルの上層階にあり、共有部分が一括管理なので、エレベーターを個別でオフにする等はできないが、各フロアの部屋ごとの冷房は利用者が付けたり消したりできる。なお、冷房はあまりに低い設定にすると自動的に電源が切れるような仕組みになっていた。その他に、送られてきたり、持ち込まれたチラシ、期限がきたものはセンターで廃棄をしていた。ただし、その量が多いので、今後は送り返すか、回収に来てもらうなど、センターで廃棄しない方策の必要性を感じた。

斉藤委員 : 経営改革室について、会議等でモニターを使うのは紙の削減等に繋がるため良い取り組みだが、あまり広まっていはいない。紙がある程度削減できていると担当者は言っていたが、具体的な数値は把握していなかった。以前と比較してどれくらい紙が削減できたかという具体的な数値を出したり、削減効果を把握することで予算が付きやすくなり、水平展開もしやすくなるのではないだろうか。生涯学習センターに関しては、年間18万人以上にもなる利用者の行動をどの程度コントロールできるかが課題だと感じた。全体としてどのような手段でエネルギーの使用、紙の使用を削減できるのか考えなければならない。特に紙については、サークル活動等でイベント紹介のチラシを持ち込まれることも多々あると思うが、イベント後は生涯学習センター側で廃棄しなければならない事情もあるので、利用者と共にできる改善策を考えていかなければならない。また、内訳として、市の職員と利用者それぞれがどの程度排出しているかを切り分け

られないこともあり、どうマネジメントしていくかという点に難しさを感じた。
“生涯学習センター” というような名称の施設なので、いっそのこと環境学習を行う場としても活用していければ良いのではないかと感じた。

須永委員 :生涯学習センターについてはサービスセクションなので、節電等が難しいと感じた。執務室と利用者の場所が一体となっているので、入り口等は常時開閉しているので空調管理が難しい。またそこに向かって扇風機を作動させて冷気を送っていたので、空調の節電という意味では難しいと感じた。カウンターに常時シルバー人材センターの方を配置しているのであれば、執務室は仕切り等を設置してもよいのではないかと感じた。

松波委員 :現地確認全体を通して質問事項、確認等はあるか。
(意見なし)

議題

第1次評価の審議について

(今後の流れについて松波委員長から説明)

コンサルタント:これから行う審議を参考に2次評価をお願いしたい。まず、この後どうなるかというイメージを先に説明したい。前回配布した外部評価報告書(資料4-1)の4、5頁をみていただくとイメージが付きやすいと思う。今後は、今日の審議結果を踏まえて点数付けと意見をまとめさせていただく。点数は平均点とし、いただいている意見もある程度集約させていただく。今回出していただいた1次評価は、委員それぞれに様々な見方があるので、今日の議論を通して情報を共有いただき、再評価していただくという趣旨のものである。まず今日配布した資料の2-1を出していただきたい。1次評価点の一覧を見ていただき、それを横に進めていく形で1項目ずつ確認していきたい。

システム全体について

- 事務局から、説明を行った。

コンサルタント:資料の2-2を見ていただきたい。事前に私の方で詳細に目を通して、特徴的な意見についてピックアップをしているので、名前を呼ばれた委員には説明をお願いしたい。その前に小池委員からいただいている「スケジュールが市長総括から逆算して行われていることに対しては、仕方ないことなのだろうか、疑問が残る。」という意見に対して私の方から補足させていただく。前回配布した参考資料の1、町田市環境マネジメントシステムマニュアルの8頁を見ていただきたい。これはいつ目標設定をして、いつ研修をして、いつ監査をしてという1年間のスケジュールについて書かれていて、これは市長総括からスケジューリ

ングされているのではないかということであるが、このスケジュールは客観的に見て良くできているスケジュールではないかと思う。一番ポイントになるのが、10月11月の次年度に向けた改善措置で、これは予算化のギリギリのタイミングであり、これを逃すと予算化に間に合わなくなる。このタイミングでやらないと今年出てきた不具合や問題について予算化が間に合わなくなり、対応が翌々年度になってしまうので、そこに間に合わせるための全体的なスケジュールリングになっている。外部評価委員会をこの時期に行うことも、速やかな対応に繋げるための仕組みになっている。それでは、奥委員からご説明をお願いしたい。

奥委員：まず、法令違反にあたるような状況が市役所にあること自体本来あってはならないことである。2017年度の内部環境監査では複数件法令違反が報告されたが、そもそも内部環境監査で発見される以前に、その部署で自己チェックをして法令違反ではない状態にしておくべきである。内部環境監査で発見され、その後、改善された。それはそれで良いが、まずはその前に、法令順守が担保されるようにすべきである。

コンサルタント：事業者の方はご承知の事かと思うが、ISOなどには、どのような法律を守らなければならないのかがリスト化され、それを点検していく仕組みが含まれているが、町田市の仕組みは省エネに特化した仕組みであり、法令順守については仕組み化されていない。それ自体問題ではないが、結果として法令違反が出ていることについては看過できない問題であり、仕組みとして改善が必要という認識に間違いはない。

松波委員：他の自治体ではどうなのか、他の自治体と比べて町田市はどうか。

コンサルタント：中規模以上の自治体はどこも環境の仕組みを作っている。ただし、情報公開や市民の意見を取り入れている自治体は少ないので、町田市は非常に先進的である。また今回参加いただいた現地確認は、市民や事業者の方が来訪されることで現場の緊張感醸成に繋がる取り組みであり、内部監査同様、素晴らしい仕組みである。ただ、法律について何もマネジメントされていないのは課題だと感じている。

計画について

- 事務局から、説明を行った。

須永委員：町田市は2021年の排出量目標について、2015年度比で6%以上削減するということだが、国が掲げている「地球温暖化対策計画」の目標は40%削減である。町田市は毎年1%ずつ削減していったら6%になるということだと思うが、この目標だと将来的に40%削減できるとは思えない。いつまでに40%達成するかという長期的な筋道が町田市の計画では見えないので説明いただきたい。

コンサルタント：地方自治体などの事業部門では40%削減していかないと国の目標に追いつかないが、この大部分には国の政策部分が含まれている。今の火力発電主体の電

力供給スタイルから再生可能エネルギー主体に転換していくということで、簡単にいうと我々（事業部門）が何も努力しなくてもCO₂は減っていくことが見込まれている。我々の努力で減らさなければいけないのは40%中の17%といわれている。基準年度や今までの努力等から考えると17%は達成できるだろうという数値である。また目標値については、現行動計画策定時の市民意見等を踏まえて作られているので、今回の外部評価の対象ではないことをご理解いただきたい。

越智委員からは削減目標に対する更なる職員周知及び各部署における具体的な策が必要と思われるコメントいただいているが、補足等あればお願いしたい。

越智委員：細かな部分では部署によって削減できるもの、できないものがあるものであろうし、それぞれの事業特性や施設の老朽化であったり、部署の広さにも違いがあると思うので、共通の取り組みだけ行うのではなく、個別の取り組み、目標設定も必要ではないかと思う。

コンサルタント：行動計画で決められた取り組みをやっているかという評価なので、ここでは組織特性、事業特性を細かく捉えたマネジメントにはなっていない。

小池委員からのコメントで、各施設のトイレについても、人感センサーの導入や暖房付き便座の温度設定などの適正管理が必要ではないだろうかとあるが、何か補足等あればお願いしたい。

小池委員：小学校等でも洋式便座が普及してきており、意識しなくてもできる場所、機械に任せるところでは人感センサーの導入等が考えられる。人間だと忘れることがあるので、機械でできる場所は機械に任せようということである。一方で温度設定については、冷房をかけることによって勝手にセンサーが寒いと誤認識し、冷房がかかっているのに便座だけ温かいということがあがる。機械に頼れるところは頼るが、それによって生まれる無駄については敏感に削減していくことが重要ではないかと考えている。

コンサルタント：事務局に確認がある。エコオフィスチェックシートではやることが決まっています、できたできない以外にも施設が自ら提案していく仕組みはあるか。

事務局：各施設で工夫して取り組んでいることがあれば書く欄を設けているので、報告できる仕組みになっている。

コンサルタント：いまご提案いただいた内容や、先程の組織特性云々なども、その中で報告してマネジメントしていく仕組みになっている。他にご意見ある方は。

奥委員：どこの施設が直営でどこの施設が指定管理かわかるようにしてほしいという質問をして追加資料1で示してもらったが、この質問の趣旨は「システム全体」の項目と関連している。マニュアルの方を見ると、環境推進員の欄に指定管理施設については運営管理責任者の指導のもと環境配慮項目に留意することとするとカッコ書きであるのみで、それ以外の指定管理施設の言及がマニュアルの中にはない。ただ付属資料の1にすべて市の施設として横並びとして載っている。これについては直営と指定管理ではコントロールの仕方が変わってくると

思うので、特に指定管理の場合はどのように指定管理者に取り組んでもらうのか等、マニュアルでももう少し詳細に記述しておかなくていいのかという問題提起である。システム全体でも、計画のところでも書かせていただいて、これらは繋がっている話である。

事務局：指定管理業者と契約をするときに、仕様書にEMSに係る部分を励行するようにと書いている。今後そのあたりもマニュアルに追記していく。

奥委員：仕様書で縛っていくというのはその通りだが、マニュアルにも記述していくのが大事だと思う。

実施について

- 事務局から、説明を行った。

コンサルタント：学校のeラーニングの実施状況が低いというのが、皆さんの評価点にも表れているが、斎藤委員、何かご意見等あればお願いしたい。

斎藤委員：学校の実施率が低いというのは忙しいという理由もあるかもしれないが、子どもたちへの教育の観点からも先生たちにはしっかりとやっていただきたい。

須永委員：これは教員を含めてのeラーニングか。

事務局：そのとおりである。

小池委員：私は小学校補助員の経験が3年あるが、実際に勤務してみると、先生方のあまりの忙しさに驚いた。朝から職員会議や、電話が鳴れば長時間保護者の対応をしたり、プールがあれば安全面の配慮をしたり、放課後や夏休みも研修等があったりと、気の毒なくらい忙しいのがわかった。先生方はそういった状況であるので、紙の分別や、裏紙使用、紙削減等まで気が回らないと思う。先生に関しては、環境が違う施設として温かい目で見てもらえればと思うところと、実際にeラーニング研修の実績を確認する期間での実施が難しいのであれば、期間外でやっていただくのはどうか。スケジュール外の部分、実施率、受講率等の数字に表れない部分で先生たちにはできるだけ努力していただくということではどうだろうか。神奈川県教育施設では、事務員を雇用して、先生たちがやらなくてよい事務作業等をお願いして先生方の負荷を軽減している。予算の問題もあると思うが、町田市も検討してみしてほしい。

コンサルタント：そういう見方もあるということで次の評価に繋げていただきたいと思います。

点検について

- 事務局から、説明を行った

コンサルタント：ここは比較的平均点が高いところだが、大橋委員は内部環境監査について適切であるとコメントされているが、何か補足があればお願いしたい。

大橋委員：内部環境監査の改善事項、不適合についてはフォローアップ監査を実施していてしっかりやっていると感じた。

コンサルタント：内部環境監査を実施している自治体は結構あるが、フォローアップまで行っている自治体は少ない。町田市はよくやっていると感じている。特にフォローアップをして、その後しっかりと是正されているかまで確認しているのはすばらしいことだと思う。

越智委員も実用性のあるいい監査だということだが、具体的には。

越智委員：廃棄物の看板に係る部分など、しっかりとやっていると感じた。

奥先生：フォローアップで是正を図るのは良いが、内部環境監査で発見される以前に、その部署で事前の点検などでチェックができているといいなと思う。部署ごとに関連法令も違い一概に言えないので、だからこそ一覧の作成が必要になってくると感じている。

須永委員：内部環境監査の経験者数とは延べ人数なのか。同じ人が何回もやっていると。7年間同じ人がやっているとあるのではないか。

事務局：延べ人数である。同じ人が何回もやる可能性はあるが、実際何年もやっている人は少ない。経験者は年間に1人いるかどうかである。

コンサルタント：私は内部環境監査の講師を何回もしているが、同じ人の顔はほとんどみたことがない。

斎藤委員：町田市には法務部門はあるのか。

事務局：庁内に法制課という部署があるが、条例制定等を行う部門である。

コンサルタント：コンプライアンスについては性善説である。

須永委員：では、監査部門はどうか。監査で法令順守を確認することはないのか。

事務局：監査事務局という部署はあるが、自治法等の中で法令に則って事務が執行されているかを監査する部署であり、法令順守を徹底させるような部署ではない。

コンサルタント：直接関係はないが、コンプライアンス意識の弱さから、内部環境監査でも指摘されている廃棄物処理法で処罰されるケースが他自治体では見受けられる。

見直しについて

- 事務局から、説明を行った

コンサルタント：町田市は他市に比べしっかりと情報開示をしているが、市民からの反応がないので改善が必要だご意見をいただいている。それらの問題について松波委員に説明をお願いしたい。

松波委員：前回も話したが、ほしい情報がホームページの深い階層にあり見つけにくい。

事務局：大きな課題であるが、階層が深くないよう検討をしているところである。

葉澤委員：情報開示の方法だが、ホームページ上で見つけにくい。せっかくの情報も見られなければ意味がないので、少しの間でもどこかに最新情報を出したりできないか。1箇所の入り口からしかたどり着けないのはどうなのか、違う方法でもたどり着ければいいと思う。

奥委員：市長総括について、今回の総括コメントは紙使用量削減のための優良事例の水平展開など、ある意味、当たり障りのないコメントである。例年そうであるが、

17年度は今までと違う。法令違反があったにもかかわらず、市の代表者としての「市長コメント」がそこに言及していないというのはいかがなものか。

コンサルタント：スケジュール的には前回の市長総括ではなく、今年度の市長総括で述べられる内容となる。

奥委員：では、今年度の市長総括には期待したい。

温室効果ガス排出量・エネルギー使用量について

- 事務局から、説明を行った

コンサルタント：排出係数に関しての意見が多かったが、問題があるというよりは、内容が正しく読み取れないという趣旨の意見だったと思う。追加資料2を見ていただくと、年度で比べた際に必ずしも排出係数が低いところと契約しているわけではないことがわかると思う。しかし、問題はこのようなわかる資料が前回の実績報告書になかったことなので、最終的に追加修正するという事で御理解いただきたい。他に意見がないようであれば、次に進みたい。

廃棄物・紙資源・グリーン購入について

- 事務局から、説明を行った

コンサルタント：奥委員からご質問をいただいているが、追加資料の3がそれに対する回答となっているということで良いか。

奥委員：はい。

コンサルタント：事務局に確認するが、汚泥等は廃棄物に含まれるか。

事務局：汚泥等も廃棄物に含まれている。

コンサルタント：これについては努力で減らせるものではない。病院の感染性廃棄物も含め、努力等で減らすものではない。

事務局：そのとおりである。

コンサルタント：斉藤委員、廃棄物の排出量は減少しているが、紙の購入量が増えてしまっている。小中学校で学習に必要な紙についてはやむを得ないと思うが、その分他で工夫ができるのではないか。ということに関して何か具体的なものはあるか。

斉藤委員：前回、東京ベーシックドリルが始まりとあったが、学習で紙を使わなければいけないのであればそこを減らすのは難しい。しかし、そこで増えるのがわかれば他のところで減らさないといけない。ここではトータルでしかわからないので、経年変化がわかるようにしてほしい。経年変化がわかればどの部分を減らしたらいいか等、具体策も見いだせると思うので、他の項目のように経年変化がわかるようにしていただきたい。改善されている部署とそうでない部署とがわかれば次に何をすればいいのかがわってくると思う。

コンサルタント：経年変化がわかるように、過年度分を用意できるか。

事務局：はい。

葉澤委員：保護者向けのお知らせ紙とかは削減できるのではないかと見ないわけだし、私の経験からも子供は親に渡さなかったり、親がお知らせを見ていなかったりが多々あるので、今の時代、メール等で代替できないか。

エコオフィス活動（共通の取り組み）について

- 事務局から、説明を行った

コンサルタント：高い評価で実施できているが、評価自体に客観性はあるのか。5が並んでいるが評価が甘いのではないかと。逆に評価が厳し過ぎるのではないかと、という意見をいただいたが、今回行った現地確認の結果報告が参考になるのではないかと。5が並んでいるところ、低いところに今回行っていただいたので、評価と実態がどうなっていたかがよくわかったのではないかと。現地確認を行い、概ね適正な評価がされているのではないかと推測される。補足等がなければ次に行かせていただく。

エコオフィス活動（施設を管理する部署の取り組み）について

- 事務局から、説明を行った

コンサルタント：先に補足すると、チェックシートの設備更新の有無の項目は、見通しで○を付けるものではない。当該年度に実際にやったかどうかでチェックするものであるということですね。

事務局：はい。

コンサルタント：越智委員からいただいている、評価に差があるというところであるが、評価の○×は実施の有無の評価のみなので、評価者によるブレは無い。

須永委員：環境推進委員の評価を全面的に信用して評価をして良いということか。

事務局：そのとおりである。

内部監査について

- 事務局から、説明を行った

コンサルタント：須永委員にいただいているコメント、内部監査で手心を加えず不適合と査定している点については客観的な監査をしていると評価したいとあるが、ここについて須永委員に補足をお願いしたい。

須永委員：職員同士の監査であれば、評価を甘くつけてしまいがちだと思うが、市として内容が公表されるにもかかわらず、厳正に評価しているのは凄いと感じた。

コンサルタント：他自治体であればお茶を濁すこともあるが、町田市は風通しがいい。業務に正面から取り組む評価すべき組織である。

松波委員：それでは、本日の審議と追加資料も踏まえ、2次評価をお願いしたい。